

燦さん No.26

企画・編集 市民総合相談室(TEL049・262・9001)

ひとひと ●女と男が共に生きる社会を目指して

「燦」とは……

燦(さん)という言葉には、さまざまな意味が込められています。自ら光を発して輝く太陽、子どもを産み育む母親、産業に携わる人々。人が人として充実した生活を送るために、今、さまざまな動きがあります。そのことをより多くの人たちと一緒に考えるために、この情報誌をお届けします。

※より多くのおみなさんにご覧いただけるよう「市報ふじみ野」に掲載します。

個を尊重しながら働くというひと

線維筋痛症という、24時間体に激痛のある病気を発症し8年目。闘病しながら、エス・テサロンのオーナーや化粧品代理店業、サロンのコンサルタント、ラジオパーソナリティとして自身の番組を持つ大谷さんにお話を伺いました。

難病に指定されるための活動や、目に見えにくい障がいや疾患の人が身に着ける「ヘルプマーク」の普及啓発大使としても、積極的に活動しています。

仕事をしていた良かったこと、意識していること

楽しみながらスキルアップできるところや、さまざまな業界の人と知り合うことで知識を広げることができるので、仕事をしていた良かったと思います。サービスやコンサルタント業務をする上では、自分軸ではない考え方をすることが必要なので、さまざまな業種や年代の人と出会うことは結果的に仕事の幅を広げてくれます。

また、病気になるって痛感したことは、高額な出費がたくさんあることです。保険適用外の治療もするため、毎月5〜8万円ほどの医療費がかかります。その他に子どもの学費、生活費が

必要です。生きていくためにも仕事をしなければならぬし、仕事をすることで自分自身のモチベーションを上げています。家に閉じこもらず、オンライン会議などで人とつながり、つらい闘病ですが、心をふさぎ込まないように意識して仕事に向き合っています。

これから仕事をする人、仕事を辞めるか迷っている人へ

あなたのしたいことは何ですか？

答えはさまざまだと思います。周りの人が働いているから何となく働いているという人ももちろんいると思いますし、私と同じようにシングルマザーで

は、行政のサービスを上手に活用することも必要だと思います。

これまでに困ったこと

仕事をする上で困ることはたくさんあります。自分の段取りがうまくいかず、日々反省しています。その経験があるので、次は同じ失敗を繰り返さず、次に生かせるよう努めています。

また、闘病しながらの業務なので、周りに迷惑をかけないように、通常よりも慎重にスケジュールを組んでいます。私の病気は体調が天候に左右されるので最善のスケジュールを立てていても予定どおりにいかない場合があります。私は個人事業なので、仕事の調整は幅を持たせて考えられますが、これが会社に所属しているとなると本当に大変だろうなと思います。もし管理職クラスの人がこの記事を読んでいたら、配慮してほ



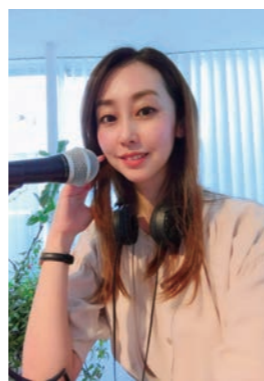
仕事とプライベートの調和

シングルマザーですので、仕事以外のことも一人でこなす必要があります。ですが、あれもこれも完璧にしようとするところも体も疲れてしまいます。優先順位を付けて、やらなければならぬことはその日のうち

働くことが必須という人もいるでしょう。自分のやりたいことだけを仕事にできればいいですが、そんなことばかりではないのが現状です。

私は、苦手な業務はもちろんありますが、仕事が好きです。苦手でもやらなければなりません。嫌なことばかりに目を向けていると、いつか全てが嫌になってしまいそうな気がします。

そうならないために、仕事をやる上での明確な目標を自分の中でしっかりと確立して、良いところを探し、何事もポジティブに捉えるようにしています。仕事を辞めるか迷っている人、やるかやらないかはあなた次第なのです。ここは全て自分軸です。どんな理由でなぜ迷っている



にこなし、そうでないものは比較的ゆつくりと向き合うようにしています。息抜きできるものがあると、ON/OFFの切り替えがうまくできるきっかけになります。OFFの日を大切に、自分が心地よいと感じる時間を過ごしています。

忙しいときは無理せずに「今日は家事、休んじやおう！」と飯はテイクアウトにしよう」という日があってもいいと思います。怠けじゃなくて、家事というものの休暇を取っているだけです。

まだまだ女性が家庭内のことをして当然という認識の人が多くいます。生きていくのに、仕事をしていくのに、男性が優位に立つという考え方はもう古いのです。これからの社会は今以上に女性のキャリアが認められ、仕事をしやすい環境があってほしいと思います。

それが一番の仕事とプライベートの調和を図るために必要

プロフィール

おたに よしこ 大谷 美子 1979年4月生まれ(42歳)

2000年大手美容会社に入社。役員秘書、広報を兼任し2003年に結婚退職後は東北に拠点を移す。26歳で第1子を出産後、専業主婦になる。31歳でシングルマザーになり、美容会社に就職。34歳で独立し、完全予約制のプライベートサロンを開業。間もなく9年目を迎える。



るのは、何となく自分の中で答えが見えているのではないのでしょうか。仕事はさまざまな人とコミュニケーションが取れたり、世界が広がったり、発見も多いです。迷っているという時点で、自分の心の中に仕事をしたくない気持ちがあることの表れなのではないのでしょうか。

しかし、思うように仕事ができない現実もあります。その原因が闘病や介護などである場合

なことになっていくような気がします。

編集後記

自分を客観的に捉え「自分軸」を持って考えることで、複雑に見えるような問題でもシンプルな答えを見いだせるかもしれません。しかし、個人だけでは解決できない問題があることも確かです。相手を思いやる行動や言動は自分の想像以上に相手の生活に大きな影響を与えます。また逆の場合にも当てはまることを常に意識していく必要があります。

今回は、思うようにいかない現実がある中で、最善の改善策を見いだして前進する大谷さんの考え方や意識、行動をご紹介しました。

情報誌「燦」と一緒に編集してみませんか。興味のある人はご連絡ください。

